

第2回 六甲山・摩耶山の交通のあり方検討会
【議事要旨】

1. 日時

令和3年12月2日(木) 15:00~17:00

2. 場所

神戸市勤労会館 2階 多目的ホール

3. 出席者

有識者

小谷 通泰	神戸大学 名誉教授
織田澤 利守	神戸大学大学院工学研究科 教授
柏木 千春	大正大学 社会共生学部 公共政策学科 教授
清水 苗穂子	阪南大学 国際観光学部 国際観光学科 教授
横江 友則	一般社団法人 グローカル交流推進機構 専務理事

山上事業者

伊藤 浄真	摩耶山天上寺/摩耶山観光文化協会 副貫主
池田 淳八	八光カーグループ 会長
宮西 幸治	六甲山観光株式会社/六甲摩耶観光推進協議会 代表取締役社長
野澤 俊博	阪急バス株式会社 自動車事業本部 営業企画部長
藤田 修司	一般財団法人 神戸すまいまちづくり公社 企画課長

経済界

津田 佳久	神戸商工会議所 常務理事
-------	--------------

関係行政機関

大塚 賢太	国土交通省 近畿地方整備局 建政部 都市整備課長
伊藤 文一	国土交通省 近畿運輸局 交通政策部 交通企画課(交通企画課長代理)
川又 淑史	国土交通省 神戸運輸監理部 総務企画部 企画調整官
原田 穫嗣	神戸市 企画調整局 交通政策課長
清水 陽	神戸市 建設局 道路計画課長
栗山 明久	神戸市 建設局 公園部 森林整備事務所長
安藤 義治	神戸市 交通局 自動車部 市バス運輸サービス課長

4. 議事次第

1 開会

2 出席者紹介

3 議事

(1) 六甲山・摩耶山における交通施策の取組方針

(2) 六甲山・摩耶山のあり方実現に向けた交通施策

4 閉会

5. 議事要旨

【意見・質疑応答】

3 議事

(1) 六甲山・摩耶山における交通施策の取組方針

○委員

- ・自動車渋滞は限られた場所でしか起こっていないと考えるが、そのために自動車交通量全体を抑制するという事は、六甲山の活性化と逆行しないか。

○事務局

- ・自動車交通量の抑制という文言が誤解を招いているかもしれない。六甲ケーブル、まやビューラインの輸送量に限界があるため、自動車ですべての上る需要は高いと考えている。そのため、自動車交通全体を抑制するのではなく、自動車ですべての上ることを前提とし、山上の施設間を公共交通で移動していただけないかと考えている。

○委員

- ・渋滞箇所はどこか。

○事務局

- ・ガーデンテラスや六甲山牧場の駐車場、表六甲のドライブウェイで混雑している。自動車を山上の駐車場に止めて公共交通で移動いただくことができれば、渋滞を抑えられるのではないかと考えている。

○委員

- ・2025年に230万人の観光客が山上へ来ていただくために、山上の2か所の駐車場を整備する方法と山上で公共交通に乗り換える方法どちらがいいのか。来訪者目線で考えたときに、施策に要するコストや期間等を考慮すると、車を中心として考える方が利便性は高いと思う。

○事務局

- ・渋滞する駐車場の規模を拡大することは選択肢としてある。議事2でもご説明するが、前回の議論を踏まえ、繁閑の差や新型コロナウイルス感染症、公共交通のサービスなど社会状況の面も踏まえて、駐車場の位置や量等を検討しなければならないと考えている。
- ・今回ご提案のように、駐車場に止めていただいて公共交通で安く移動できる仕組みを整えることで、回遊性も高まりながら各施設を移動する行動に転換できないかという選択肢もあると考える。

○委員

- ・この検討会で整理していただきたいのは、六甲山の活性化のために、いかにして山上へスムーズにアクセスできるか。そのために交通網をどう整備したらよいか。三宮から山上までのダイレクトな手段がなく、今の交通体系では費用や時間などに課題がある。自動車交通量の抑制という文言は、誤解を招く。

○事務局

- ・自動車交通量の抑制という言葉については、表現方法を考える。自動車交通を規制するという考えはなく、渋滞を抑えるために、どのような取り組みができるかについて考えたい。

○委員

- ・自動車交通と公共交通のバランスの問題は六甲山だけでなく、どの都市でも悩んでいる問題。六甲山において、車で山上まで上がり、交通渋滞に巻き込まれ、身動きができなくなる状況はよくない。さらには公共交通で山上まで上がった人も渋滞に巻き込まれ、不利益を被る状況はやはり改善すべき。自動車の利便性を決して否定するわけではないが、限られた道路空間の中で多くの人を受け入れることや車を運転できない人が六甲山に来てもらうことも大事。抑制というと一方的に締め出すというイメージもあったと思うので、自動車交通量の抑制という文言は修正した方が良いでしょう。自動車交通と公共交通の利便性をどうバランスさせるか今後議論しながら、解決していく必要がある。

○委員

- ・渋滞日数が年間何日あるかが問題。観光入込客数がピークの平成 29 年で、10 日～20 日間程度という実感。渋滞するのは、ゴールデンウィークとお盆、11 月の土日、2 月の特異日等、ごくわずかな期間であって、そのためにどこまで莫大な投資をするか。逆にその日をどう乗り切るか。山上施設では、繁忙日について駐車料金を倍にし、公共交通への転換を促している。山上の東西を移動する方や山上施設を利用しない方からすると不満が大きい。繁忙日の時に駐車場が別途臨時に作れば解決すると思う。莫大な投資で行くならば、六甲山エリアの道路の片側 2 車線化ができれば渋滞は解決する。しかし、繁忙日で六甲山のイメージが変わるため、渋滞日数は少なくとも投資を行っていくという発想もわからなくはない。しかし、問題の本質からいうと何が何でも自動車から公共交通に転換しなければならないとは思っていない。両方が併存できて、多くの方でにぎわっても不自由なく動けるような方法が何かを、検討会で考えていきたい。

○委員

- ・今年はグリーンシアが開業し、結構にぎわっており、丁字ヶ辻まで渋滞している。別荘を持っている方が出入りできない。近隣の方や商業施設に渋滞で迷惑をかけている。例えば、山上の駐車場を活用して、シャトルバスを出して送迎するのはどうか。軽井沢など、全国多くの都市で同様の取り組みを行っている。

(2) 六甲山・摩耶山のあり方実現に向けた交通施策

○委員

- ・今回の検討会のポイントは、市街地から山上にスムーズにアクセスするためのライフラインを如何に構築するかが1番のテーマだと感じている。事務局の提案は山上の移動をより良くという考え方がメインのように思うが、市街地から乗り換えなしで直接山上までアクセスできるという考え方もあるのではないかと感じる。乗客目線では、乗り換えとなるとかなり躊躇する。市街地から山上まで乗り換えせず、直接アクセスできる方法を検討いただきたい。

○事務局

- ・例えば、バスなどにより市街地から山上まで直行便を出すことが考えられるが、現状の考え方としては摩耶ケーブルや六甲ケーブルを使うことをベースに分かりやすさや使いやすさという面で今回ご提案させて頂いた。

○委員

- ・市街地から直接山上まで向かう路線を設定することが、山上の活性化の最善策だと思う。

○委員

- ・パークアンドライドを進めるにしても、ストレスフリーになるように考えなければならない。将来的に山上の集客力をさらに上げていくという方向性で向かっていく上で、多様なモビリティの導入ということも踏まえると、自動車と公共交通のバランスの問題かと思う。
- ・神戸の差別化の要因は、まちと山と海が近いということ。距離的には近いが、アクセスとしては不便。街に来た人が気軽に山に登れる、簡単に海に行ける、海と山両方に行ける。一帯の魅力ゾーンとしてそれぞれの良さが掛け合わされるような施策を行うべき。山に限って言うならば、市街地からダイレクトに山上に行けること。都心部、特に便利なまちなかからのアクセス整備が重要だと思う。都心部から簡単に山上にアクセスできるということになれば、民間の活力導入で山上の拠点整備やより視野を広げたアイデア、取り組みが期待できるのではないかと感じる。まずは都心部からダイレクトなアクセスマルチについて何か踏み込んだ検討を是非してほしい。
- ・現在の姿を踏まえて考えることも重要だが、未来志向の夢や発展性のある大胆なプランの検討をお願いしたい。

○事務局

- ・市街地からダイレクトにアクセスできる手段というのは、直行バス等ではなく、新たな移動手段を整備するということか。

○委員

- ・そうである。例えば、布引ロープウェーも中途半端な印象であり、もっと活用できるのではないかと感じる。山とまちと海をつなぐようなスケール感で大胆に考えてほしい。

○事務局

- ・市街地から山上をダイレクトにつなぐ方法については、実現可能性等、慎重に考えなければならない。他のご意見も含めて幅広くご意見頂ければありがたい。

○委員

- ・ウォーターフロントエリアに水族館やチョコレートミュージアムがオープンし、バスを走らせると聞いたが、どのようなものか。

○事務局

- ・三宮から新港町を通過してハーバーランドまで結ぶ新たな路線を、Port Loop という接続バスが運行している。新港町というエリアは元々港のエリアであり、バスの路線がかなり限られていたため、再開発にあたり路線が必要ということで運行に至った。
- ・また、当市ではウォーターフロントエリアに LRT や BRT など新しい交通システムの導入について議論をしており、その検討の一環として、連節バスの運行を開始した。

○委員

- ・水族館やチョコレートミュージアムという新たな目的に合わせて、新たに路線を整備したことになるかと思う。六甲山の活性化という観点からも、新たな路線の検討をお願いしたい。
- ・光ファイバーの整備や水道料金体系の見直しについて、改善いただいた。ただ、市街地からの交通がネックになっており、山上への来訪が少ない。山上の交通だけでなく、市街地から山上までの交通網の整備を前向きに検討いただきたい。

○事務局

- ・この検討会でのいただいた意見も踏まえて検討していきたい。

○委員

- ・バス事業者の事業環境は非常に厳しく、収支や運転手のなり手不足等、深刻な課題を抱えている。また、繁閑差が非常に大きいということもあり、今の公共交通だけでは難しい。そのような中で、路線バスの増便は厳しい。短絡ルート化や新しいモビリティ導入などにより、バス事業者の負担軽減も重要ではないか。

○委員

- ・これまでの論点を整理すると2点。
- ・1点目は、需要のパイを大きくすることは大事だが、自動車の交通についてはどう積極的にマネジメントできるかだ。
- ・2点目は、先程から議論になっており、キーワードとなっている市街地からのダイレクトなアクセス手段。摩耶ロープウェー搬器の大型化を行うのであれば、一層のこと、摩耶ケーブルも含めて1本のロープウェーでつないだ方がいいのではないかと思う。

○委員

- ・時間軸の概念を追加した方が良い。おそらく短期で事業者の要望に応えながら、長期のビジョンに向かって進んでいくことが求められる。長期のビジョンには、ダイレクトに山上へ運ぶ新しい交通機関等も含まれるが、全て含めてその中で見取り図を描かれると議論は進むのではないか。
- ・市街地からダイレクトなアクセスというのは賛成。基幹となる鉄道とのアクセスを良くするという観点でいけば、いくつか候補が考えられる。フィジビリティを一旦抜きにすると、摩耶山の近くである王子公園は今後再整備も予定されており、そういう場所から摩耶山までのアクセス手段というのはあり得るのではないか。
- ・社会全体の流れは、自動車の保有からシェアに変わりつつある。そういう社会の大きな変化により早く対応していくことも1つのアピールになり得る。自動車を過度にいじめるわけではないが、オプションとして公共交通の利用者が楽しく、快適に過ごせるということも非常に重要。

○委員

- ・取り組みの方針の整理の仕方についてご提案したい。事務局は、課題を起点にして取り組み方針を掲げている。ビジョンを起点に取り組み方針を掲げてはどうか。今回のビジョンは、六甲山の活性化。そのために交通をどうすべきか。
- ・六甲山が活性化しているというのはどういう状態か。例えば「山を楽しむ観光客数を増やす」「滞在時間を増やして消費額を増やす」「暮らす人と観光客の不満を低下させる」などいくつかの具体的な六甲山を活性化させる細分化された成果目標が出てくるかと思う。さらにそれを細かくしていくと、市街地からのアクセシビリティの向上や山上の回遊性のアップ、渋滞の解消などさらに具体的な取り組み課題が見える。今まで挙げられている課題ではないものが強調されてくるのではないか。
- ・プロセス目標の共有というのが重要ではないか。短期・中期・長期それぞれでどういった状態を目指すのかといったことを共有し、そのために何をするのか、どこまで進めたらいいのかということを検討すべき。
- ・アクセシビリティの整備は、費用と時間がとてもかかる。この点も考慮しなければならない。

○委員

- ・山上までのアクセス手段は自動車が7割、公共交通が3割で、この割合が今後どうなっていくか。やはり公共交通が増えてくるのではないか。その上で、来訪者は、市民だけでなく、市外からの観光客、インバウンド等と幅広いことを考えると、公共交通の準備をする必要がある。
- ・現在起きている課題、将来的に観光客を20%増やすという目標、どちらも短期的な取り組みが必要になってくる。事務局の提案内容が候補にはなるとは思うが、事業者の方の意見も踏まえて適時修正が必要。
- ・長期的なビジョンとしては、市民、市外からの観光客、インバウンド等、ターゲットを絞りながらこのエリアに合ったビジョンに沿ってどのようなものが必要になるのかを考える必要がある。
- ・市街地からのダイレクトな交通も良い。その時に公共交通利用者が増えるとしても、定期的に運行する必要は必ずしもない。例えば、ツアーバスを利用者が集まった時に出す、又は繁忙期の時に出すなど、その時々々の繁忙期に合った形を考えていくというのも1つの手ではないか。
- ・誰が利用しても便利になるということは大事。財源が1番難しい所だとは思いますが、MaaS等できる限り少しずつ対応することが必要。

○委員

- ・山上までのアクセスについて、ロープウェー搬器の大型化で約40~60億かかる。おそらく鉄柱も全て建て替えということだろう。これだけの費用を負担できるのであれば、搬器の大型化で中途半端にお金をかけるのではなく、布引ロープウェーを掬星台まで延伸してはどうか。そうすると、直接、新神戸から六甲山までのアクセスができる。関西だけでなく、新幹線の乗客を呼び込むことも可能となる。
- ・市街地から山上までの直通バスについても、実験のような形で行楽シーズンだけでも運行をしてみてもどうか。事業化するのであれば、その利用状況や利用者の反応等から運賃設定等も考えなければならない。
- ・ダイヤの見直しも重要。ダイヤを見なくてもいいようなもの、例えば「行けば必ずそのバスが待

っている」とか「行けば必ずバスの乗り継ぎができる」など、パルスダイヤを検討すべき。

- ・六甲山全体を1つのテーマパークと捉えてはどうか。六甲山に上がり、一定料金を支払えば、どこでも自由に入れる。例えば、ホテル宿泊料の中に運賃が若干入っているなど、お客さんから見えないようにする。新しいモビリティも含めて何でも乗れるということになると、あちこち自由に移動でき楽しいエリアとなり、集客力は高まるのではないか。
- ・自動車交通については、北風と太陽ではないが、規制をすると反発もある。太陽政策なら、公共交通での来訪者にはアルコールを1杯プレゼントなど。アルコールを飲む方は1杯では終わらず、2杯、3杯と飲む方が多い。その分回収もでき、アルコールを飲む前提で最初からスムーズに自動車から転換が狙える。

○事務局

- ・路線バスの再編について、単なる増便は難しいという意見もあり、いただいた意見を踏まえて検討したい。
- ・長期、短期というスケジュールやビジョンを起点にした整理を行っていききたい。
- ・市街地からのダイレクトなアクセスというのがキーワードになってきた。以前、市議会からも、都心と六甲山上を直通で結ぶロープウェイを整備できないかという質疑はあったが、事業費や事業採算性など色々な課題があるとお答えしてきた。ただ、本日も同様の意見をいただいたので、それらの課題はどうすれば解決できるのかという一歩進めた視点で検討していききたい。
- ・六甲山全体を1つのテーマパークにするためにも、交通と目的の利用セットで安く提供するというようなことを事業者の方々と一緒に考えていききたい。例えば、パークアンドライド利用者は、元々、公共交通を利用しなかったはずなので、運賃を安く設定しても交通事業者にとっては純増の収益になるのではないか。そういったことも含めて、利用者にとって利用しやすい価格の設定や見せ方などを考えていききたい。

○委員

- ・市街地からのダイレクトなアクセスは、長期的取り組みといわず、課題の整理がある程度進んでいるのであれば、この検討会の中でも議論を行い、少しでも前倒しをして中期的取り組みに位置付けられれば、より良いのではないか。

○委員

- ・まやビューラインが市街地のへその緒。ただ、まやロープウェイの輸送力は課題。まやロープウェイの定員が1つのボトルネックとなり、摩耶山上のイベントもその輸送力25名に引っ張られている。学校利用の際も、1学年80人乗車しようと思ったら、時間がかかり大変。まやロープウェイ搬器の大型化が出来れば、ありがたい。
- ・市街地からのダイレクトなアクセスで、新神戸という意見も出ていたが、一層のこと地下鉄を掬星台の下まで延伸し、そこからエレベーターでつなげると良いのではないか。
- ・六甲山牧場は、駐車場の混雑状況をHPに掲載している。トータルの駐車台数は十分確保しているが、気候的な条件等により、来訪者の滞在時間が長くなり、満車になることもある。
- ・森林植物園の来訪者は、ほとんどが神戸電鉄から。六甲方面に流れるのは2割しかいない。あじさい祭り、モミジ祭り等、イベント時にはマイカーが圧倒的。渋滞の主な原因は小部峠の信号待ち、それから南に下って異人館の間での信号待ち。市バス25系統は応援をどんどん出してくれ

るが、渋滞で動けなくなってしまう。

- ・摩耶山の交通について、坂バスや市バス、まやビューライン、新たに導入するモビリティ、これらを使い継いで、六甲山牧場までアクセスする。そして、山上のモビリティは10分間隔で運行し、各施設を結んでくれると、回遊性や賑わいを助長する。

○委員

- ・市街地から山上にダイレクトに人を送ることを第1に検討していく理解でよいか。
- ・その上で、搬器の大型化やダイヤの見直しなどの話があったが、今後、取り組みの妥当性や効果等、データに基づいて検討していただきたい。

○事務局

- ・ダイヤの見直しについては、現状のダイヤがずれているという事実があるため、その問題点を解決するということである。
- ・市街地からのダイレクトなアクセスについては、本日、委員の皆さんから意見をいただいたところ。それを前提にするということではなく、できるかどうかを含め、本日の議論を踏まえて検討していきたい。